



明治大学17階食堂から

「若者のすべて.2018」

みなさん、こんにちは。

3月になり、雪も落ち着き、春を迎えようとしています。

朝起きて、除雪をしない日々が続くだけで、自然の豊かさが心地よくなるから不思議です。

さて、ここで私事ながら報告があります。

山形に来てから苦節7年。あのフリーターだった私は、結婚しました。

みんな、「えー！！」って言います。

それは、結婚したこと以上に、僕が結婚する人間だとは思わなかったと驚きます。

それもそのはず、僕も山形に来て結婚するとは思いませんでした。

今回のコラムでは、田舎問題の代表格でもある「若者の結婚」について書いてみようと思います。

ご存知の通り、27歳で訪山(山形に来た)し、現在は34歳。もはや若者とは言えません。しかし、田舎では34歳は、高校生くらいでしょうか？(笑)50歳で若者という場合がありますから。

本題に入りますと、田舎に限らず、都会でも結婚しない若者が増えていると聞きます。

その理由としては、「いい相手がいない」「生活力がない」「子育て出来るか不安」「めんどくさい」などなど、よくあるパターンではあります。僕もそう思うことはありました。婚活していると、よくあることの一つに、考えすぎて現実離れしていくというのがあってと思います。とくに2極化していきます。

例えば「いい相手とめぐり逢えない」としたら、「自分がダメだから気が合う人がいない」と考えるか、「相手がダメだから、まだまだ自分のレベルに至ってない」と考えるか。

「生活力がない」としたら「これからも収入が上がる見込みがないから諦めるしかない」と考えるか、「結婚資金を貯めてから婚活しよう」と考えるか。

婚活を主催している方や、人生の先輩方は、「それじゃダメなんだな。こういうときは、こうしてこうして。。。とアドバイスをしてくれるわけですが、それらが婚活者に響かず、素直に受け入れて、行動できないのは、人それぞれみな違う。十人十色だからです。

婚活で悩んでいる人は、自分がどんな人間か？よく知っていると思います。人付き合いはどうしたらいいのか？一生一緒に生活できる人を見つけるにはどうしたらいいのか？優しくするとはどういうことか？相手が傷つくとはどういうことか？身分相応とはどういうことか？信頼とは何か？幸せとは何か？etc...

「君たちはどう生きるか？」という古典的な名著が漫画になって大ヒットしているようです。僕も大学生の時に読み、素直におもしろい本だと思い、一番のお気に入りになりました。それが、はるか昔の何十年も前の本だと知り、昔から若者というのは同じことで悩んでいるんだと思いました。この本が大ヒットするあたり、いつの時代も人は人生について何もわからないものだと思います。

そうです！結婚とは？人生とは？幸せとは？それは考えてもわからない事なのです！婚活の最大の欠点は、これらの難題を抱えて、自分と向き合ってしまうことで、結婚が遅れてしまうことなのです。

協力隊を終えた今でも、少し遠くからアドバイスをくれる、東沢センターの小方さんは言いました。。。「結婚は、したら何とかなる」。僕はこの名言に、前文を付け加えたいと思います。それは「人付き合いが出来たら・・・」です。色々諦めて、家でゲームばかりしていても、オンラインでしか付き合えません。人付き合いは就活や就職、会社勤めに似ているので、社会人として自立していれば、色々な事をすでに知っているのではないのでしょうか？